



中学校保健体育教諭の信念が体育授業計画に与える影響

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-02-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 近藤, 佑斗, 中島, 寿宏 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/0002000088

中学校保健体育教諭の信念が体育授業計画に与える影響

近藤 佑斗・中島 寿宏*

北海道教育大学札幌校教育学研究科高度教職実践専攻

*北海道教育大学札幌校保健体育科教育学研究室

The Influence of Middle School Physical Education Teachers' Beliefs on Physical Education Lesson Planning

KONDO Yuto and NAKAJIMA Toshihiro*

Graduate School of Education, Hokkaido University of Education

*Department of Physical Education Pedagogy, Asahikawa Campus, Hokkaido University of Education

要 旨

「教師の信念」とは、教師の思考の深部に恒常的に存在する暗黙的な理論であるとされている。こうした教師の信念は、授業実践にどのような影響を与えているのか、その関連についてこれまで多くの研究が進められてきたが、相反する結果が混在しており、未だ検討の余地が残る。本研究では、中学校保健体育教諭の信念が体育授業計画に与える影響について、事例的検討の側面から明らかにすることを目的とした。対象は札幌市内に勤務する教職歴10年以上の中学校保健体育教員5名とし、質問紙による教師の信念の調査およびインタビューによる体育授業計画の調査を実施した。結果として、教師の信念の違いが授業のねらいや思い描く生徒の姿といった授業計画の意識や授業計画の変容の受け入れに影響を及ぼしている可能性が示唆された。

I. 背 景

教師という仕事は、子どもの資質・能力を育むという職責がある。この職責を果たす上で、教師は自己の信念に基づいて日々子どもと接している。こうした「教師の信念」については、これまで多くの研究が行われ、教師に内在し授業過程における教師の思考・感情・行動を規定していると定義されている（Clark and Peterson, 1986；黒羽, 1999；秋田, 2000）。これを踏まえ、教師の

信念が教師行動を中心とした授業実践にどのような影響を及ぼすかについて検討が進められてきた。三島・淵上（2010）は、教師の信念からくる一貫した行動が児童の中に教師の認知像を作り、その認知像が「自信・一貫性」という教師の潜在的な影響力となり、教師の指導行動をさらに効率的にしていくと述べている。また、新井（2017）は、数学科におけるカリキュラム知識に関する信念は、子どもとの相互作用により、瞬発的に行動への意思決定に影響を及ぼしていることを明らか

にしている。このように、教師の信念は教師行動の効率性や瞬発性およびその行動の意思決定に影響を及ぼす。一方で、Kulinna et al. (2000) は、教師の信念が授業実践における新しい方法を試し、それらを継続しようとする教師の熱量と意欲に影響があることを明らかにしているものの、教師行動には影響を与えないことを明らかにしている。このように、教師の信念が授業実践に及ぼす影響については、心理的側面への影響は示唆されているものの、実際の教師行動への影響については相反する研究結果が混在しており、さらなる検討が必要である。また、体育科は他教科と比べて、入職前経験からすでに形成されている体育授業に関する信念が変容しにくいといった、教師の信念の様相が違うことが明らかになっている(朝倉, 2016)。そのため、体育授業に着目した教師の信念の研究もこれまで行われてきた。御園生ほか(2021)は、中学校保健体育教諭を対象に、教師の信念体系の形成における授業改善への関心を高めるに至る要因を検討し、授業実践の省察は自身のもつ授業力量向上への意欲につながり、ひいては「授業観」, 「教師観」, 「研修観」から構成される教師の信念に影響を与えていることを示唆している。また相良ほか(2021)は、教師が有する信念が異なれば授業中の教師行動、特に準備や整理といった授業進行のための「マネジメント」や発問やフィードバックなどの子どもとかわり合う「相互作用」が異なることを明らかにしている。このように体育授業において教師の信念と授業実践との間には関係性が見られることが示唆されている。しかし、授業はあらかじめ教師が設定する指導計画に沿って進行するものである(細越ほか, 2000)。これまでの研究では、授業実践の中でも教師行動と教師の信念との関連について研究が進められてきたが、授業づくりや授業構想といった授業計画と教師の信念との関連を検討することで、教師の信念と授業実践の関係について、さらに明確に示せると考えられる。

そこで本研究では、中学校保健体育教諭の信念が体育授業実践に与える影響について、体育授業

実践の中でも体育授業計画に着目し、事例的検討の側面から明らかにすることとした。

II. 方法

1. 調査対象・実施時期

本調査は、2022年10月上旬から12月初旬にかけて、札幌市内の中学校に勤務する教職歴10年以上の保健体育教諭5名を対象として実施した。調査対象者に対しては、事前に研究目的、方法、手順、結果の公表方法、プライバシーの保護などについて説明書類を作成して説明を行い、同意を得て調査を実施した。

2. 教師イメージ尺度

教師の信念は、朝倉・清水(2014)が作成した教師イメージ尺度および仕事の信念尺度をGoogleフォームを用いてデータを収集した。

教師イメージでは「体育教師は~のようだ」といったメタファー項目を設定し、「7: 全くその通りである」から「1: 全くそうではない」のリッカート型尺度からなる7段階評定法にて回答を求めた。質問内容は「誘導者」, 「管理者」, 「学習支援者」, 「協力者」といった4因子15項目で構成されている。さらにこれらの因子は、生徒と学習の間に立ち、生徒を主体とした学習を促進することを重視している「支援者型」と、生徒を管理しつつ、時には競技者や有識者あるいは協力者として生徒を学習へと牽引する存在の「管理者型」の2つのクラスターに分類される。

仕事の信念尺度では、体育教師という仕事のあり方に関する項目に「7: 全くその通りである」から「1: 全くそうではない」リッカート型尺度からなる7段階評定法にて回答を求めた。質問内容は「公共的価値の重視」, 「職務における自己実現」, 「先導的実践の追求」, 「生徒重視」, 「自律性の行使」, 「専門的閉鎖性」, 「研究志向」といった7因子20項目で構成されている。さらに、これらの因子は、自己実現を重要視する信念の強さが伴う「自己実現型」, 体育教師としての仕事におい

て目の前に存在する生徒を重視する信念を持つ「生徒重視型」、自らの信念と相反するような新たな情報に対する寛容性を窺わせる「開放的信念型」、体育教師の仕事において自らの判断に基づいて意思決定をすること自体を強く志向している「独善型」、体育教師という職業の中で、淡々と職務を遂行していくといった閉ざされた信念である「閉鎖的信念型」の5つのクラスターに分類される。

本研究では、質問紙にて収集した教師イメージ尺度および仕事の信念尺度の得点から、各教師の得点における得点率の1番高いクラスターを抽出し、これらを教師の信念の傾向として捉えることとした。ただし、得点率が上位2番目以降のクラスターにおいて、1番目と大きな差が見られない場合は、複数の信念の傾向を示していたこととした。

3. 体育授業計画

体育授業計画においては、インタビュー調査にて特徴を明らかにした。インタビュー内容は、体育授業計画に対する教師の意識について明らかにした梅村ほか(2021)のインタビューガイドを参考に、①体育授業を計画する際に意識していること、②子どもとかかわる際に意識していること、③体育授業を通して子どもたちにどんな姿を求めるかについて回答を求めた。回答は文字に書き起こし、記述内容が変わらないように配慮しながら文章を整えるクリーニング作業¹⁾を行った。

Ⅲ. 結果および考察

教師の信念について、各教師の特徴を表1にまとめた。本研究対象者のすべてが教師イメージにおける支援者型(生徒を主体とした学習を促進することを重視)の信念の傾向が強かった。梅村ほか(2021)が若手教師は授業者として提供できることを意識して授業づくりをしており、熟練教師は子どもを主体とした授業づくりを心がけていることを明らかにしている。また、朝倉・清水(2014)

は教職経験年数が10年未満の教師では管理者型(生徒を管理しつつ、時には競技者や有識者あるいは協力者として生徒を学習へと牽引する)、10年以上の教師では支援者型の傾向が強いことを示しており、先行研究を支持する結果となった。

表1 各教師の信念の特徴

教師	性別	勤務年数	教師イメージ	仕事の信念
A	男性	17	支援者型	開放的信念型
B	男性	17	支援者型	閉鎖的信念型
C	女性	15	支援者型	生徒重視型
D	男性	18	支援者型	開放的信念型 生徒重視型
E	男性	10	支援者型	開放的信念型

仕事の信念においては、教師Aと教師Eが開放的信念型(自らの信念と相反するような新たな情報に対する寛容性を窺わせる)、教師Bが閉鎖的信念型(体育教師という職業の中で、淡々と職務を遂行していく)、教師Cが生徒重視型(目の前に存在する生徒を重視する)、教師Dが開放的信念型と生徒重視型の傾向が強くなり、各教師に信念傾向の違いが見られた。ここで朝倉・清水(2014)は、教職経験年数が10年未満の教師には生徒重視型が、10年以上の教師には自己実現型や独善型が多く、閉鎖的信念型や開放的信念型には教職経験年数の違いによる差異はないことを明らかにしている。また、支援者型の教師には開放的信念型の教師が著しく多く存在し、管理者型の教師には閉鎖的信念型の教師が多い傾向にあると述べている。こうしたことから、仕事の信念においても先行研究とおおよそ同様の傾向が見られたと言える。

体育授業計画については、インタビュー内容における各教師のワードランキングを表2にまとめた。教師Aにおいては「自分」、「年生」、「一緒」などの言葉が多く出現し、分析の結果、「自分」、「一緒」という言葉の文脈には【自分が一緒におこなうと】、【自分たちが一緒に】のように、授業は生徒と一緒に創り上げていくものであるという

表2 各教師のワードランキング

	A教師		B教師		C教師		D教師		E教師	
	言葉	回数								
1	おこなう	33	子	7	思う	16	自分	11	おこなう	11
2	自分	12	授業	7	自分	15	1	8	考える	7
3	思う	9	ケガ	5	授業	11	おこなう	7	時間	6
4	時間	9	合わせる	5	おこなう	10	授業	7	見る	6
5	1	8	思う	5	何	9	どう	5	1	4
6	サッカー	8	おこなう	4	良い	9	作る	5	どれ	4
7	考える	8	なるべく	4	時	7	子	5	ゴール	4
8	年生	7	皆	4	人	6	思う	5	子	4
9	2	6	生徒	4	好き	5	生徒	5	言う	4
10	一掃	6	時	3	子ども	5	1つ	4	何	3

授業計画の意識が見られた。また「年生」という言葉が多く用いられていることから、学年といった生徒の発達段階を捉えた授業計画の様子が窺えた。教師Bでは「子」、「授業」、「合わせる」、「生徒」などの言葉が多く出現し、子どもの実態を捉えた授業計画の意識が見られた。また、「授業」という言葉のワードツリーからは、【授業がうまく回って】、【ケガやトラブルが少なく授業が】といった文脈になっていることから、安全管理や時間配分といった授業の流れを大切に授業計画している様子が窺えた。教師Cにおいては「自分」、「授業」、「子ども」という言葉が多く出現し、自分が生徒および教師として経験した体育授業を想起している様子が窺えた。また、「自分」という言葉のワードツリーから、【自分なりの変わり方】、【自分の良さを出す】という文脈が見られたり、「子ども」という言葉の【子どもたちが何か一生】、【子どもたちにとってプラス】という文脈から、授業内での子どもの様子をイメージしながら計画し、体育授業をきっかけに生徒が何かを得たり自己形成されたりすることを授業計画の中で意識されていた。教師Dでは「自分」、「授業」、「子」、「生徒」が多く出現した。「自分」という言葉のワードツリーからは、【その子と自分】、【自分と生徒が楽しいこと】といった文脈が続き、教師と生徒との関係性を大切にしながら授業計画している様子が窺えた。また、「子」、「授業」という言葉のワー

ドツリーより、【子たちがどう授業を】、【子たちをどう乗せて】という文脈が見られることから、教師が先導するというよりも生徒の主体性を大切に授業計画している様子が窺われた。教師Eでは「時間」、「子」という言葉が多く出現していた。「時間」という言葉のワードツリーからは、【時間に関わることは必ず】、【時間配分だったり】といった単元や授業の時間配分に関する文脈が見られた。また、「子」という言葉のワードツリーの【○な子には○○】という文脈から、生徒1人1人を捉えた授業計画の様子が窺えた。

以上の結果から、教師Aと教師Dの授業計画は、教師が生徒を先導して授業を進めるというよりも、生徒主体で学習を進めようとする支援者型の授業計画の特徴と考えられ、教師イメージにおける支援者型の信念が授業計画における生徒主体の学習が促進されるような授業計画に結びついている可能性が示唆された。一方で、仕事の信念においては教師Bのみ閉鎖的的信念型が見られた。教師Bは安全管理や時間配分といった授業の流れを大切にしつつ、生徒との一定の距離間を意識して授業計画をおこなっている。ただし、子どもの実態に合わせた授業計画も意識しており、授業計画段階で子どもの実態を捉えた授業を計画し、授業内では生徒様子を見ながら活動を調整したりするが、授業内において生徒との距離を保ちながら安全や時間の管理といった職務を遂行するというの

が教師Bの授業計画の特徴であると考えられる。これは、生徒を主体とした学習を図る支援者型の信念と淡々と職務を遂行する閉鎖的の信念の両面が表出した形であると考えられる。また、教師A・教師D・教師Eは開放的の信念の傾向があった。教師Aはインタビューの中で以前の自分の授業計画を想起していたが、昔と授業計画が変わったきっかけについて、【今の学校の同僚の先生】がきっかけであったと話していた。さらに、3名の教師は共通して授業計画の変化の要因を【学習指導要領の理解】であると話していた。ここで、朝倉（2016）は体育教師が他の教科の教師に比べて、入職前からすでに形成されている体育授業に関する信念が変容しにくいと述べている。また、白旗（2013）は、学習指導要領などの行政資料を授業に活用する教師は、職能意識（研修して身につける必要があると感じているもの）の得点が高いことを明らかにしており、開放的の信念の傾向を持つ教師はそうでない教師に比べ、教科指導を学ぶ必要感が強く、学習指導要領においても深く理解することの必要感が強いと考えられる。そのため、開放的の信念を持つ教師は、絶えず新しい情報も受け入れ、授業計画を変容させていくことが示唆された。さらに、教師C・教師Dは生徒重視型の傾向が見られた。2名の教師からは、教師が生徒を先導して授業を進めるといふよりも、生徒たちにとっての体育授業や体育教師の意義といった視点での授業計画の様子が見られ、これが生徒重視型の信念を持つ教師の特徴と考えられた。

IV. まとめ

本研究の目的は、義務教育段階でかつ教科担任制である中学校段階を対象とし、体育教師の信念が授業実践に与える影響について、授業実践の中でも授業計画に着目して事例的検討の側面から明らかにすることであった。

結果から、授業イメージが支援者型の信念傾向であった教師には、生徒主体の学習が促進される

ような授業計画の特徴があることが示唆された。また仕事の信念においては、開放的の信念の特徴を持つ教師は、絶えず新しい情報も受け入れ、授業計画を変容させていくことが考えられ、閉鎖的の信念の教師は、安全や時間の管理を中心とした授業計画の特徴が見られることが示唆された。さらに、生徒重視型の教師は、生徒たちにとっての体育授業や体育教師の意義といった視点での授業計画の特徴があることが考えられた。以上のことから、教師の信念の違いが授業のねらいや思い描く生徒の姿といった授業計画の意識や授業計画の変容の受け入れに影響を及ぼしている可能性が考えられた。ただし、本研究における信念傾向には善し悪しはなく、信念が教師の能力を示しているわけではないことは押さえておきたい。そして、これまでの教師の信念と授業実践に関する研究では、教師行動との関連について検討が行われていたが、本研究の結果は教師の信念が授業実践に及ぼす影響について明らかにする上で、授業計画という新たなアプローチとして寄与するものであると考えられる。

注1) クリーニング作業とは、文章の語尾を常体に統一し、漢字などを同一のものに書き換える作業のことである。

引用文献

- 秋田喜代美（2000）教師の信念. 日本教育工学会編教育工学事典. 実教出版：194-197
- 新井美津江（2017）カリキュラム知識についての教師の信念. 数学教育学研究, 23(2)：169-177
- 朝倉雅史・清水紀宏（2014）体育教師の信念が経験と成長に及ぼす影響：「教師イメージ」と「仕事の信念」の構造と機能. 体育学研究, 59：29-51
- 朝倉雅史（2016）体育教師の学びと成長：信念と経験の相互影響関係に関する実証研究. 学分社：139
- Clark, C. M. and Peterson, P. L. (1986) Teachers Thought Processes. In: Wittrock, M. C., Ed., Handbook of Research on Teaching, MacMillan, 7(3)：255-296
- 細越淳二・高橋健夫・吉野聡（2000）体育授業におけるプログラム・プロセス・プロダクト研究の試み—教師

- の指導性の異なる2つのサッカー授業分析を通して一。
スポーツ教育学研究, 20(1): 41-58
- 黒羽正見 (1999) 授業行為に表出する「教師の信念」に
関する事例研究—ある小学校教師の挿話的語りに着目
して一。日本教科教育学会誌, 21(4): 27-34
- 三島美砂・淵上克義 (2010) 学級担任教師の信念と指導
行動の関連。日本心理学会第74回大会抄録: 1179
- 御園生康輔・中島寿宏・山本理人 (2021) 中学校保健体
育教諭の授業改善への関心を高める要因に関する質的
研究—教師の信念体系の形成に着目して一。北海道体
育学研究, 56: 53-63
- Pamela, H. K. ・ Stephen, S. ・ Xiaofen, D. K. (2000)
Relationship Between Teachers' Belief Systems and
Actions Toward Teaching Physical Activity and
Fitness. Journal of Teaching in Physical Education,
19: 206-221
- 相良彩月・林修・北岡大輔 (2021) 保健体育教師の信念
の違いが授業中の教師行動に及ぼす影響に関する事例
的検討—高校保健体育教師を対象にして一。和歌山大
学教育学部紀要, 71: 65-72
- 白旗和也 (2013). 小学校教員の体育科学習指導と行政作
成資料の活用に関する研究。スポーツ教育学研究, 32
(2): 59-72
- 梅村拓未・高瀬淳也・高橋正年・河本岳哉・村上雅之・
中島寿宏 (2021) 小学校体育授業における熟練教師の
指導技術に関する研究—授業計画に対する意識および
授業場面での児童とのかかわりに着目して一。北海道
体育学研究, 56: 19-32

(近藤 佑斗 札幌校大学院教育学研究科2年)

(中島 寿宏 札幌校准教授)